

奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 12

(春号：3)

2003. 4. 1

A N C : News Letter



シャリンバイ
H15年3月撮影



リュウキュウシロスミレ
H15年3月撮影



ヒレンジャク（左右）
キレンジャク（中央）
H15年3月撮影

寒さが和らぎ、吹く風もさわやかに感じられるようになりました。野や里では、小さな草花たちが色とりどりの花を咲かせています。道端ではかわいらしい紫色や白色のスミレの花が、ゆるやかな風に揺れながら咲いています。あたり一面新緑におおわれている中で、大島紬の染料にも使われているシャリンバイの白い花が満開で、香ばしい香りを漂わせています。また、ゴモジュの小さな実やゲッキツの実が紅く熟しているのが目をひきます。山や里ばかりでなく海辺でも春の息吹を感じる時です。海岸の岩や砂浜には緑のじゅうたんのようにはアオサが生えており、海辺へ出かける人が多く見られる頃になりました。

春になって冬鳥が去ると、鳥たちは繁殖の時期に入り、奄美を通過する渡鳥も増えてきます。最近では、頭に鮮やかで大きな冠羽をもっているヤツガシラやヒレンジャク・キレンジャク、サギ類が里近くで目撃されるようになりました。サンコウチョウやアカショウビンといった夏鳥たちがやってくるのももうすぐです。

この季節の心地よい陽ざしをうけながら、野や山へ出かけて植物や野鳥など、自然とふれあってみてはいかがでしょうか？身近にある自然の素晴らしさを改めて感じられるかもしれません。

お知らせ

「奄美の植物たちの恵み」

人と動物の衣・食・住開催について

期 間：平成15年4月29日（火）～5月31日（土）
場 所：奄美野生生物保護センター（企画展示室）
講 師：田畑満大先生

奄美諸島は、豊かな自然が多く残され、固有の植物が多い地域と言われています。そこで、奄美野生生物保護センター開館3周年行事として、4月29日～5月31日までの期間「奄美の植物たちの恵み展」の開催を企画しました。食物や衣類など人と植物の関わりについて紹介していく予定です。尚5月5日（月）には田畑先生による講演会も予定しています。期間中にセンターでご覧いただければと思っています。

平成14年度環境省の『グリーンワーカー事業』

環境省のグリーンワーカー事業で、奄美地区では大和村の奄美野生生物保護センター近くに自然散策地「移入種観察の庭」や自然散策路「すももの里コース」とが整備されました。

センター近くの「移入種観察の庭」には、スモモの木が植えられている他に、奄美諸島の固有種や移入種（他の土地から移ってきたもの）などが生えています。今回の事業で畑の草花を固有種か移入種かわかるように名札に色別でテープをつけてあり、いつも見ているものから初めてみるものまで、植物についての観察ができるようになっているコーナーです。



「移入種観察の庭」



「すももの里コース」

「すももの里コース」はセンターから歩いて約80分くらいで散策できるコースになっています。地元のスモモの生産者の方にご協力を頂いて、果樹園の中にも入ることができます。中に入って行くと以前に黒砂糖を製造していた跡が残されています。途中、大和川で野鳥の観察もできます。

センターで散策路のコースガイドをお渡ししています。ガイドシートを片手に自然観察へ出かけてみてはいかがでしょうか。

鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例制定について

鹿児島県環境保護課 柘山卓也

鹿児島県は緑豊かな森林や美しい海岸線、多様な野生動植物など美しく豊かな自然に恵まれています。

しかしながら、近年、乱獲等や生息地・生育地の改変等による生息等環境の悪化により個体数の減少が進み、中には種そのものや地域個体群の存続が危惧されるものが見受けられます。

奄美群島でも、イシカワガエルやイボイモリなどのようにインターネットで販売するために乱獲されたり、ミヤビカンアオイのように「ガンに効く」との風評のもとに乱獲されるなどして絶滅の危機にさらされている動植物が見受けられます。

こうしたことから、鹿児島県の希少な野生動植物の保護を図ることにより、良好な自然環境を保全し、現在及び将来の県民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的に、「鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例」を制定しました。

条例の主な内容は以下のとおりです。

- 1 県及び県民等は、希少野生動植物の保護の重要性を認識し、協力しあって希少野生動植物の保護に努めなければならない。

主な希少野生動植物の例

- ・ 哺乳類（アマミノクロウサギ、エラブオオコウモリなど）
- ・ 鳥類（クマタカ、ヤイロチョウなど）
- ・ 両生類（カスミサンショウウオ、イシカワガエル、イボイモリなど）
- ・ 汽水・淡水産魚類（リュウキュウアユ、メダカなど）
- ・ 昆虫類（ベッコウトンボ、ゲンゴロウなど）
- ・ 植物（ノカイドウ、カンラン、フウラン、ミヤビカンアオイなど）

- 2 希少野生動植物のうち特に保護を図る必要があるものは、指定希少野生動植物として指定し、捕獲等を禁止すること。
- 3 必要があると認めるときは、指定希少野生動植物の生息地・生育地を生息地等保護区として指定し、その区域内での開発行為等を制限すること。
- 4 指定希少野生動植物のうち、繁殖・増殖により商業ベースで流通可能なものは、特定希少野生動植物として指定し、その個体の譲渡しの業務を伴う事業を行う者は、特定事業の届出をしなければならないこと。
- 5 規制を徹底するため罰則を設けたこと。

なお、この条例は、希少野生動植物の保護に努めることについては、平成15年4月1日から施行されていますが、指定希少野生動植物等の捕獲等の禁止などの罰則付きの規制については、公布の日から9ヶ月を超えない日から施行されることになっています。

地域紹介

名瀬市

名瀬市 金作原自然観察教育林

名瀬市は、奄美大島のほぼ中央に位置し、人口約4万3千を有する奄美群島の政治、経済、文化などの中心地です。市街地から車でちょっと走れば、海岸線の美しい珊瑚礁や、固有種など貴重な動植物が生息する金作原をはじめ豊かな自然にふれあうことができます。

金作原は、奄美の代表的な亜熱帯広葉樹の原生林で市民の散策や子供の教育の場として利用されており、正式名称を「金作原自然観察教育林」という国有林です。ここは、太古を思わせる巨大なヒカゲヘゴやイタジイ、イジュなどがうっそうと生い茂り、その湿潤な森の中には、アマミノクロウサギやケナガネズミ、ルリカケス、オオトラツグミなどの希少生物や豊富な両生類、は虫類が生息し、多様な生態系を観察することができます。また、山の精気に触れ、思索や精神を涵養するにもよい散策コースです。

金作原自然観察教育林



アマミノクロウサギ



イシカワガエル



このコースで見られる主な野生生物		
植	イタジイ(ブナ科)	ヒカゲヘゴ(ヘゴ科)
	オオタニワタリ(チャセンシダ科)	エゴノキ(エゴノキ科)
物	イジュ(ツバキ科)	ビロウ(ヤシ科)
	アマミノクロウサギ	アマミトゲネズミ
生	アカヒゲ	ルリカケス
	アマミヤマシギ	アカボシゴマダラ
	イシカワガエル	ハブ

- ※ このほかにもたくさんの動植物を見ることができます！
- ※ 金作原での動植物の採集は、一切禁じられております！！

身近な生きもの情報

野生の生きもの観察日記

「春の自然日記：子育てシーズンは調査シーズン」

日差しが暖かさを増し、スタジイの新芽で山が柔らかな黄緑色に染まり、目を楽しませてくれます。これから花が咲くと、山は鮮やかな黄色に染まり、春本番を迎えます。

鳥の世界では、あれほどたくさんいた冬鳥のシロハラなどツグミの仲間（NO. 11 『冬の自然日記』参照）はすっかり数が減り、春の渡りのシーズンが到来します。南西諸島の間際に位置する奄美群島では、毎年この春の渡りシーズンに大変珍しい鳥が記録されています。どんな出会いがあるか楽しみな季節です。



（珍鳥のヤツガシラ；大和村国直にて）

そういった渡り鳥たちと違い、奄美の留鳥たちは子育てのシーズンを迎えています。奄美で最も早く子育てに取りかかるのはルリカケスで、2月頃からせっせと巣の材料となる木の枝を持って飛び回ります。そして奄美の中でも最も絶滅のおそれのある鳥、オオトラツグミとアマミヤマシギも、そろそろ子育てのシーズンに入ります。今回はこの2種の鳥で最近行われた調査のお話をしたいと思います。

3月15～16日には地元NGOの奄美野鳥の会が実施する、“オオトラツグミさえずり調査”に参加しました。これはオオトラツグミのさえずりが最もよく聞こえる、3月中旬の夜明け前後に二人一組で林道を歩き、オオトラツグミのさえずりが聞こえてきた方向を記録します。それらをまとめて生息数の推定をするという内容です。辺りはまだ暗く、遠くから聞こえるオオトラツグミの声を地図に記入する作業は、慣れないとなかなか難しいものでした。でも山から聞こえてくる美しくも鋭いさえずりは、「自分達はまだここに生きているんだ」と訴えかけているような気がします。

3月下旬にはアマミヤマシギ全島調査を行いました。夜間に島内を走る林道をできるだけくまなく走り、発見場所やその時の行動を記録していきます。実はこの時期、アマミヤマシギとよく似たヤマシギという鳥も本土から渡って来ていて、その識別が難しいのです。飛ぶ時に鳴く声や体の模様をよく見て慎重に識別していきます。夜間の調査ということで、眠たくなることもあります。でも、アマミヤマシギだけでなく、アマミノクロウサギやリュウキュウイノシシ、イシカワガエルなど、たくさんの生き物に出会うこともできます。すると眠気が不思議と消えてしまいます。

これらの調査結果は、現在センターで進めている保護増殖事業の基礎的なデータとして活用されます。たくさんの人の協力と努力が、奄美の生き物を守る大きな力になります。



（←調査中に見つけたアマミヤマシギ。
こちらに背を向けています。）

（思わぬ出会い。雨の路上に出ていた
イシカワガエルを発見→）



生き物情報マップ

春に見られる野生生物

※ 参考文献：図鑑奄美の野鳥.

「ヒレンジャク」 スズメ目 レンジャク科 全長17.5cm

全体が赤紫色がかった淡い褐色で、黒い過眼線は長く冠羽まで続いている。キレンジャクに似ているが、尾の先端が鮮やかな赤色なので区別は容易である。また、腹の中央部は黄色で、おしりの付近は赤色である。冬鳥として全国に渡来するが、全く来ない年もある。群でいることが多く、奄美では、ピラカンサやクロガネモチ等の実を、群れで食べていることが多い。キレンジャクと混成群をつくることもあり、キレンジャクよりよく冠羽を立てる。奄美へも迷鳥として10数羽前後の群れで渡来することがある。

鳴き声：チリチリチリ、ヒーヒー、など

記録時期：3月～5月、9月、10月



左・右 → (ヒレンジャク)

中 央 → (キレンジャク)

「キレンジャク」 スズメ目 レンジャク科 全長19.5cm

全体が赤紫がかった淡い褐色で、体が太く尾が短めで、頭には小さな冠羽がある。過眼線やのど、翼や尾は黒色で、翼には白斑部があり、尾の先端は鮮やかな黄色である。腹の中央部は灰褐色で、おしりの付近は褐色である。群性強く、木の実などへ集まり、興奮して冠羽を立てたりする。全国に冬鳥として渡来するが、北部日本や本州中部の山地に多い。奄美へは、迷鳥としてごく稀に数羽の群れで渡来する。

鳴き声：チリリリリー、チリチリチリ、など

「オオソリハシシギ」 チドリ目 シギ科 全長41cm

オグロシギに似た大形のシギであるが、長いくちばしが少し上に反り、足はオグロシギより短い。夏羽では頭上が赤褐色に黒い軸斑があり、体の上下面とも赤褐色で、翼には黒い軸斑と白斑がある。くちばしは先端が黒く基部は淡紅色で、足は黒色である。雌は体の赤褐色味が弱く、雄より大きい。冬羽では頭や体の上面が灰褐色で、下面は淡灰褐色で胸や脇に褐色斑がある、全国の海岸や干潟などに旅鳥として渡来し、長いくちばしを穴に突っ込み、カニやゴカイなどを食べる。奄美へも春秋の渡りの時期に渡来するが、数は多くない。



「ゴモジュ」 スイカズラ科

分布：奄美大島以南

石灰岩地帯の低地～山地の日当たりの良い林縁に多い常緑低木で、よく分岐し、高さ3～4 mに達する。枝は灰褐色で皮目が多くざらつく。葉は厚い革質で対生し、長さ5～15 mmで赤みを帯びた葉柄がある。葉身は倒卵形～楕円形長さ3～8 cm、先端は円頭または鈍頭、ほぼ全縁で、表面に多少光沢があり、葉脈は裏面に突出する。円錐花序は2年枝の先に頂生する。花冠は漏斗状で筒部の長さは4～5 mm、白色でときにピンク色を帯び、花には芳香がある。核果は楕円形で長さ5～6 mm、赤く、のちに黒く熟す。生け垣や庭木としても利用される。



「ムラサキカタバミ」 カタバミ科

分布：日本各地

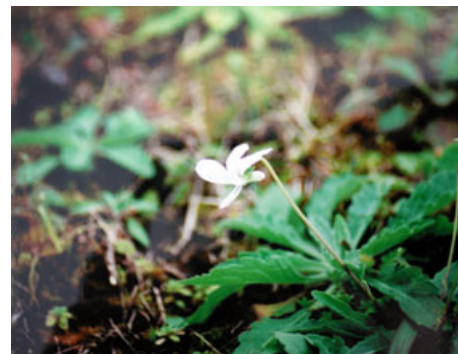
庭や畑地、道端などに生える南アメリカ原産の多年生草本。種子はできないが、地下に球形の鱗茎があり、そのまわりに多数の小さな鱗茎を作って繁殖する。葉は長さ5～15 cmの有毛の葉柄がある。小葉は倒心形で、裏面の特に葉縁近くに橙色の細点がある。花茎は葉より高くぬき出て、先端に淡紅紫色の花を咲かせる。



「リュウキュウシロスミレ」 スミレ科

分布：上甌島以南

日当たりのよいやや粘土質の路傍に生える多年生草本。葉身は耳の出た長3角形、先はとがり縁には鈍い鋸歯がある。花は根生し、花柄は葉よりも著しく長く、葉よりずっと上で花が咲く。花弁は白色であるが、変化が多く、唇弁には紫色の縦条が数本入る。



※ 参考文献：琉球弧野山の花

「ノアサガオ」 ヒルガオ科

分布：本州（紀伊半島・伊豆七島）以南

空き地、やぶ地、林縁などに生えるつる性の多年生草本。花は径6～7cm、淡青色で夕方には紅変する。がく片は卵状被針形、長さ1.5～2cm、花の白いものを品種のシロバナアサガオと区別することがある。日本各地に帰化しているマルバアサガオは、がく片の長さが幅の3倍ほどで先は尾状に伸びず、果実は下向きに熟すので区別できる。



「ゲッキツ」 ミカン科

分布：奄美大島以南

海岸近くに生える常緑小高木。樹皮は灰白色で薄く、材はきわめて硬い。葉は奇数羽状複葉、3～9枚の小葉からなる。小葉は長さ1.5～5cm、先は鈍頭でややへこみ、基部はくさび形で葉柄に移行する。花は白色で芳香がある。液果は卵状球形で赤く熟し、長さ10～12mm。刈り込みに強く、昔から人家の生垣としてよく植栽されたが、最近はあまり見かけなくなった。



平成15年度の風だより

「地域紹介コーナー」掲載予定の町村です。

ニュースレターNO	町 村 名	発行年月日予定日	原稿締切予定日
第13号（夏号4）	知 名 町	平成15年 7月初旬	平成15年6月26日
第14号（秋号4）	瀬 戸 内 町	平成15年10月初旬	平成15年9月26日
第15号（冬号4）	住 用 村	平成16年 1月初旬	平成16年1月26日

*上記の町村の協議会担当者には原稿締切予定日が近づきましたら、文章にてお知らせします。その節は宜しくお願いいたします。

編 集 後 記

暖かな陽ざしに誘われて屋外へと出かけたくなる季節になりました。集落近くでもヒヨドリのピー、ピーとさえする声がひときわ大きく聞こえてきます。協議会のみなさん今年度もよろしくお願い致します。

